

日本生理人類学会第77回大会特別講演

ヒトの睡眠の多様性： 社会時刻とのミスマッチに悩む人々

講師 三島和夫

(国立精神・神経医療研究センター 部長)

第13回人類学関連学会協議会合同シンポジウム

眠りの人類学 人は夜をどのように過ごしてきたか

「霊長類の睡眠」

座馬耕一郎（日本霊長類学会 長野県看護大学 准教授）

「ヒト時計遺伝子（PER2）と

光感受性が関連する不思議について」

太田博樹（日本人類学会 北里大学医学部 准教授）

「睡眠・生体リズムの個人差」

北村真吾（日本生理人類学会 国立精神・神経医療研究センター 室長）

「睡眠の文化的側面を考える」

豊田由貴夫（日本文化人類学会 立教大学観光学部 教授）

「民俗社会における夜の過ごし方」

中西裕二（日本民俗学会 日本女子大学人間社会学部 教授）

コーディネーター

樋口重和（九州大学大学院芸術工学研究院 教授）

若村智子（京都大学大学院医学研究科 教授）

参加無料 申込不要

公開講演・シンポジウム

2018/6/16(土)14:00～17:30

九州大学大橋キャンパス 多次元デザイン実験棟

定員250名 開場13:30～

日本生理人類学会

Japan Society of Physiological Anthropology



[http://jspa.net/
congress77](http://jspa.net/congress77)

趣 旨

眠らない動物はいないといっても過言ではないと思います。睡眠は脳や身体を休めるために不可欠な行動ですが、現代では睡眠不足や不眠を抱えている人がたくさんいます。また、ヒトは本来昼行性の動物ですが、あたかも夜行性動物のような生活を送る人もいます。一日の中でこれほど行動が多様な種はヒト以外にいないのではないのでしょうか。近年、睡眠科学の進歩によってその重要性が次々に明らかにされています。メディアなどでも多く取り上げられ、社会的な関心も高まっています。しかし、それらの中には誤解が含まれていたり、まだ謎に包まれたところもあったりします。本シンポジウムでは、睡眠の多様性をキーワードに、進化、生理、文化の面から、人にとっての睡眠、あるいは夜の過ごし方について人類学的な視点から見つめなおしたいと思います。

講師略歴

三島和夫（みしまかずお、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神生理研究部 部長）
秋田大学医学部医学科卒業。同医学部精神科学講座・助教授、2002年米国バージニア大学時間生物学研究センター研究員、2003年米国スタンフォード大学医学部睡眠研究センター客員准教授を経て、2006年6月より現職。睡眠・覚醒、生体リズムの制御メカニズム研究から、睡眠障害の新たな診断法および治療法の開発、新薬治験、医療機器の開発、睡眠医療の向上を目的とした調査研究などを幅広く展開している。これまでに、睡眠薬の適正使用と休薬のための診療ガイドライン、睡眠障害治療薬の臨床試験ガイドライン等を作成。主な著書に、「8時間睡眠のウソ。日本人の眠り、8つの新常識」（日経BP社）、「朝型勤務がダメな理由 あなたの睡眠を改善する最新知識」（日経BP社）、「レコーディング快眠法 医師が教える眠りの処方箋」（朝日新聞出版）など。ナショナルジオグラフィック日本版にて「睡眠の都市伝説を斬る」を連載中。

シンポジスト略歴

座馬耕一郎（ざんまこういちろう、長野県看護大学・准教授、日本霊長類学会）
京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了。タンザニア、マハレ山塊国立公園で暮らす野生チンパンジーの夜間行動、霊長類とシラミの関係、大隅半島に生息するニホンザルの生態などを研究している。チンパンジーのベッドをヒントに作られた『人類進化ベッド』の発案者。主な著書に、『チンパンジーは365日ベッドを作る』（ポプラ社）、「Mahale Chimpanzees」（Cambridge University Press、共編著）、「Chimpanzee Behavior in the Wild」（Springer、共著）、『日本のサル』（東京大学出版会、共著）、『フィールド映像術』（古今書院、共著）など。

太田博樹（おおたひろき、北里大学・医学部・准教授、日本人類学会）
東京大学大学院理学研究科博士課程修了。博士（理学）。古代DNA分析から出発し、1999年からドイツ・マックスプランク進化人類学研究所で北部タイ山岳民族の集団遺伝学、2001年から米国・イエール大学医学部でアルコール代謝関連遺伝子群の分子進化に取り組んだ。2005年に帰国後は、主に生理・代謝・疾患に関与する遺伝子を対象として文化・環境と遺伝的多様性との関連をテーマにしたゲノム人類学を展開している。主な著書に、『ヒトは病気とともに進化した』（共編）2013年12月（勁草書房）、『人種神話を解体する2 科学と社会の知』『ゲノム情報にもとづく人類学にとっての集団』2016年11月（東京大学出版会）、『現代思想 特集=変貌する人類史』『遺伝子が映し出す進化の地形図 進化医学が捉えるルーツ』2017年6月（青土社）、『チンギス・ハンの遺伝子』2018年3月（ちくま新書）など。

豊田由貴夫（とよだゆきお、立教大学・観光学部・教授、日本文化人類学会）
東京大学大学院社会学研究科文化人類学専攻博士課程修了。パプアニューギニアを中心とする南太平洋地域を研究対象地域とし、近代化が現地にもたらす影響、開発と文化の問題、ネイションビルディングの問題、民俗植物学などを研究課題としてきた。この他に睡眠と文化の研究、特に夢の民族誌の研究も行っている。主な著書にSago Palm: Multiple Contributions to Food Security and Sustainable Livelihoods (Springer, 共編)、『展示の政治学』（水声社、共著）など、睡眠に関する著作としては『夢うつつまぼろし ― 眠りで読み解く心象風景』（インターメディカル、共著）、『睡眠文化を学ぶ人のために』（世界思想社、共著）、『夢と幻視の宗教史』（リトン社、共著）、論文に「なぜ日本人は眠らないのか：不眠の文化的要因」などがある。

中西裕二（なかにしゅうじ、日本女子大学人間社会学部・教授、日本民俗学会）
慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。日本の宗教民俗文化研究から出発し、ベトナム南部のエスニック・カテゴリーをめぐる諸問題、日本の観光史と宗教の関係、日本の中世仏教と民俗文化の関係、などの研究を進める。主な著書に『憑依と呪いのエスノグラフィー』（共著、岩田書院）、『観光学キーワード』（共著、有斐閣）、『日本はいかに語られたか』（共著、昭和堂）、『拡大する中国世界と文化創造—アジア太平洋の底流』（弘文堂、共著）など。

北村真吾（きたむらしんご、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神生理研究部臨床病態生理研究室室長、日本生理人類学会）
九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科修了。九州大学ユーザーサイエンス機構テクニカルスタッフ、国立精神・神経医療研究センター研究員、英国サリー大学睡眠研究センターVisiting Fellowを経て、2014年より現職。専門は、朝型夜型をはじめとした睡眠・生体リズムの個人差、睡眠・リズム障害の病態生理研究、睡眠不足・リズム脱同調の健康影響。主な論文にIntrinsic circadian period of sighted patients with circadian rhythm sleep disorder, free-running type. Biological psychiatry 73 (1), 63-69.doi:10.1016/j.biopsych.2012.06.027. 2013.など

事務局・お問合せ
日本生理人類学会第77回大会事務局
九州大学大学院芸術工学研究科
e-mail:jspa77@jspa.net 電話：092-553-4523

会場へのアクセス

